

「神様との約束 ～一人の影響～」

ヨシュア6：16～20
ヘブル11：1～3

見えるものは目に見えるものからでき たのではない。愚かな私たち。

ヘブル11:1-3にあるように、私たちは日々、目に見えるものから大きな影響を受けています。しかし、その目に見えるものは、目に見えないものからできているということを知らなければならないと言うことです。すると私たちは、目に見えるものによらずして、この見えるものをつくられた目に見えないものを信じていることができるのです。物事を知らない私たちは愚かです。本当にやらなくてよいことをやろうとしたり、言わなくてよいこと言ったり、見せなくてよいもの見せたりするのです。

神さまは、このエリコでの戦いよりもずっと前からイスラエルの民の勝利を決めていました。それは、アブラハムがカナンに出発した時に決まったのです。アブラハムは神さまから「私が示す地に行け(創世記12:1-4)」と言われ、その言葉に従って父祖の地を離れたのです。そこで400年という長い月日が過ぎました。しかし飢饉が起こりエジプトに旅立っていきました。その間に、このカナンの地にはイスラエル人ではない多くの他民族が住むようになっていました。イスラエルの民のためにエリコの城壁が崩されたように見えますが、実はこの400年の間に増幅したこの地の悪が悔い改められるのを待っておられました。私たちの目にはマイナスな状況に見えるあらゆる出来事を通して、神の栄光を顕すために働かれるのです。私たちは、神さまのように自分の人生を俯瞰してみることができません。今、目の前に起こっている現実だけを見て右往左往してしまうのです。だから、その目の前にある目に見えているものが、見えるものからできたのではないことを知らなければならないと言われているのです。

神との約束・チャンスを与えられる神

エリコの城壁が崩され戦いは収束に向かいますが、その中で神さまが人々と交わした約束がありました。それは、聖絶のものとならないために、その戦利品に手を出してはいけないというものでした。この町と町の中すべてのものを、主のために聖絶しなさいと言われたのは、神さまがこの町をイスラエルの民に与えていた・約束されていたということでした。しかし、アカンが聖絶のものいくらかを取ってしまい主の怒りはイスラエル人に向かって燃え上がったのです。圧倒的優位にあったイスラエルはアイとの戦いで大敗してしまいます。着物を裂き喚くヨシュアに神さまは、私が命じた契約を破り、聖絶のものに手を出したから聖絶されるものとなったのだと語りました。冒頭でも語られたように、カナンの地では約400年間に悪が増幅し、悔い改めを待っておられました。チャンスが与えられていたのです。ラハブは罪の象徴ともいえる遊女でしたが悔い改めて救われました。ラハブと同様にアカンにも悔い改めるチャンスが与えられていました。しかし、自分が思う通りに行動して神さまとの約束を破り罪を隠し続けたのです。結果、神さまによってあぶり出され、罪を告白することになりました。私たちにもアカンと同じ罪があります。私たちはとかくその逆をやってしまいます。やるべきことはやらないで、頑張らなくてよいことを頑張ってしまう、また、これだけはやってはダメだよと言うことやってしまうのです。約束の内容は人それぞれですが、私たちにも神さまから言われている約束があるはずで、神さまは、その時々によって、私たちが聖絶されるものとならないための約束…やるべきこと・やってははいけないことを語られます。

一人の人の行動が与える影響

今回のことはアカン一人によって犯された罪でありました。しかし、一人の人の行動の与える影響がどれほど大きいかを私たちは知らなければなりません。申命記28章1-2節には「もし、あなたが、あなたの神、主の御声によく聞き従い、私が、きょう、あなたに命じる主のすべての命令を守り行なうなら、あなたの神、主は、地のすべての国々の上にあなたを高くあげられよう。あなたがあなたの神、主の御声に聞き従うので、次のすべての祝福があなたに臨み、あなたは祝福される」とあります。天の父なるお父さまは私たちのことを愛しておられるから、私たちが幸せになる方法を伝えてくれています。そしてイエスさまは私たちが愛していて幸せになってほしいから、私たちの罪を全て背負って十字架にかかって死なれたのです。幸せになってもうために身代わりになって贖ったその人が全く違う方向に進んで行っていたらどう思うでしょう。私たちなら怒るでしょう。しかし神さまは、私たちに必要なことを語り、悔い改めを静かに待っているのです。

私たちには、神さまに約束したことがあるのにその約束を破ってしまうことを未だにやってしまうのです。この罪はイスラエルの民を全滅させるほど大きな罪です。ですから今日、神さまが語ってくださったことに聞く耳をもち、もう神さまとの約束は破らない！神さまとの約束は守るんだと決断しましょう。

一人の人の行動が与える影響～ナバルとアビガエル～

聖書にナバルとアビガエル夫婦のことが書かれています(1サムエル25章)。当時、ダビデはサウルに追われていました。ナバルは多くの家畜を持っており、その手下たちが群れを導いて荒れ野で牧草を食べさせるのです。しかし荒れ野には、突然襲ってきて家畜を奪う略奪者がいます。ダビデは、そういう略奪者からナバル家畜の群れを無報酬で守ってあげました。羊の毛を刈る時という年に一度の大きなお祭りにダビデは部下をナバルのところに遣わして支援を求めました。しかし、ナバルはこのダビデの要求を断りました。ダビデとナバルは敵対関係になりました。そのことを聞いた妻アビガエルは、夫に黙って直ちにダビデへの支援を行ったのです。そして彼女は、攻めてこうとしていたダビデに会い、その前にひれ伏して謝り、夫の失敗を償おうとしているのです。ここにはナバルの愚かさやアビガエルの賢さが描かれています。ナバルは目に見える状況からダビデのことを、主人のもとを逃げている者程度に捉えて横柄な態度を取りました。一方アビガエルは、全く目に見えるものとはなっていない、ダビデに与えられている主なる神の約束でした。つまりこの二人の違いは、目に見える現実だけを見つめ、それを自分で判断して生きる者と、目に見える現実の背後にある主なる神の御心を見つめ、神の約束こそが実現していくことを信じている者の違いなのです。ナバルとアビガエルそれぞれ一人の決断が生死を分ける重大な影響を与えているのです。私たちは自分の決断なんて大した意味がない・影響なんてないと思いがちです。それは大きな間違いです。一人の間違った決断は末日まで大きな影響をもたらす、また一人の正しい決断は家族全員を末日まで救うのです。アビガエルもラハブもそうでした。アカンは自分の部族を全て滅ぼしました。だから、間違った決断をしてはいけないのです。もし、重大であるこの決断を誤った時こそラハブのように悔い改めなければならないのです。

一人の人の行動が与える影響～ アーネスト・ゴードン～

太平洋戦争下のインドシナ半島で、インド侵入のためビルマへの陸上補給路を必要とした日本軍は、大量の連合軍捕虜と現地人労働者を使って、死の鉄道といわれた泰緬鉄道を建設していました。アーネスト・ゴードンはこの死の鉄道建設に連れて行かれ、犠牲者の一人に加えられる運命がありました。しかし、キリスト者の二人の友人たちの献身的な看護によって回復しその後、彼の周辺では信仰復興が巻き起こって、地獄に等しかった収容所が生を取りもどしていくのです。そしてその後、この二人は収容所で亡くなり、ゴードンは生きて牧師となり「クワイ河収容所」という本を書き、この話が語り継がれているのです。ゴードンも立派ですが、この収容所を変えた二人が立派だったのです。この二人は収容所で亡くなったのですが、そこに大きな意味があります。神さまはこの地で名をあげることを喜ばれているわけではありません。この亡くなった二人は天において最も尊い人として神の栄冠を受けていることでしょう。

まとめ

自分には大したものがない、影響を与えないと思わないでください。自分は偉大な人物ではないと勘違いしないでください。神さまは、私たちの人生に大きな影響力をイエスキリストの十字架によって与えているのです。問題が起きた時、私たちは神さまの前で覆いを取り除いて神に聞き従う決断をしながら最後に神さまとした約束を守っていくのです。神さまと交わした約束を私たちが忘れているとその行いがいくら善を行っていたとしても意味がありません。神さまは、私と交わした約束を果たされることを願っているからです。神さまが私たちに「彼だけは守りなさい」と必ず語られているはずで、その約束を守れなかった時・失敗した時には、自分の中のごまかし・恥・偽りを自覚し悔い改めましょう。一人の人の決断が重要なのです。この決断を誤らないようにしていきましょう。

(要約者:行司 佳世 伝道師)

(2024年11月3日)